



オタク男子は地獄で『女体化』されて、
エロゲヒロイン達にしてきた
『変態プレイ』をされちゃいます



基本CG 8 枚
ストーリー 6 7 枚



「何十年……♡♡？そんなにや……ほひい♡♡？
きっ・キ〇タマアア……キ〇タマおち〇ほミルク
で……んひい♡♡」



「やっやら……♡おち〇ほミルク出っっほにやし
なんていやあ……♡やらあ……イキたくにやい
……イキたくにや……」

『さて、それではもう教えきれないくらい
イッチやいましたし、もうアナタの為に刑罰
を考えるのもめんどくさくなってきました』
『な〜の〜で〜』



『しばらくは噴水として設置しておくことに
しました。その惨めな姿を天国のみんなに晒
して、せいぜい見せしめにでもなったださ
いね〜？』

「おひっ！！？おひはおひはおひはおひ」

『ほらほら早く起きてください。いつまで寝てるんですか?』
「あっあれ……僕はまた……えっ♡♡♡ちゅっ……なにこれ♡?」



やたら面積の少ない水着を着せられ、僕の両腕は拘束されていた。

エロゲーをしていたかと思うと、いきなり目の前が真っ暗になり……
気が付くと僕は、どこか裁判所のような場所に立たされていた。
そしてそんな僕を一人の女の子がニマニマとした笑顔を浮かべながら覗き込んでくる。



「おはようございます。お目覚めはどうですか？ 地獄に落ちちゃった時点で最悪のお目覚めでしょうが……」
「まあ、お決まりの挨拶って言うのは大事ですよ？ ああ、私はエンマと言うものです。お見知りおきを……」

『じっ、地獄……♥♥♥?』
いきなり何を言うんだ♥? ボクは自慢
じゃないけど、犯罪行為が出来る勇気な
んて無い、エロゲーオタクだぞ♥!?



それすら、表に出せずにコソコソとし
か、オタクライフを送れていないって
うのに……♥!?
……あれ、なんか声高い?

「ふむふむ……？女性の監禁542件、強姦および強姦未遂125件、催眠による女性の意思に反した行為の強要3の1件……」
「うわー、まだまだ出てきますねえ？正直、私もひいちゃいますよ……？」
『ななな、そんなことボクは……♡？』
「ん？ああ、あれですか？現実じゃなきやセーフ！？」
「……」



「最近はどうねえ、そもそもそういう願望を抱く事とか、犯罪の根元だという話になりました」
「その原因はエロゲーとか、エロマンガとかだって話に飛躍したんですよ。まったくお偉いさんは発想が豊かですよ、ねえ」

『え……あ……』
「なのでまあ、エロゲのキャラクターにも簡易的な人権とかがつてのが認められまして、そのキャラクターに対する犯罪行為もカウントする運びになったんですよ」



「あなたには、これからその、女の子の身体で、貴方がしてきた以上の事を味わってもらいますから」
「そう言うてエロゲは鏡をポーンと目の前に置く。」



「あなた、連休だからって、エロゲをろくに睡眠も食事もせずにやりつつうけて死んじやったみたいでなし……まあ、お似合いの末路ですよわ？」



そこに映っていたのは、いつもの僕の姿ではなく、エロゲのヒロインをそのまま現実を持ってきたかの様な姿だった。
『これ、ボク……♡？え……うそ……♡？』

「まーこんな事しても、犯罪の数が減る
とか、ぜえんげん思ってたせんが、
せつかくですの、テストケースのモル
モット……楽しんでってくださいね？」



「なに、たった一万年くらいの刑期であ
す」
『ひっ……やっやだ……やあし……』
めんなさいごめんなさいごめんな
い♡♡♡♡♡

「だーめーです。それでは貴女には有罪、変態プレイヤー一万年の判決を言い渡しまさす。頑張ってくださいね」



エンマがにっこり笑って判決を言い渡す。同時に僕の視界は真っ暗にブラックアウトする。
そうして、ボクの刑期が始まりを告げた。

『ほらほら早く起きてください。いつまで寝てるんですか?』
「あっあれ……僕はまた……えっ♡♡♡ちゅっ……なにこれ♡?」



やたら面積の少ない水着を着せられ、僕の両腕は拘束されていた。

『あーとりあえず、最初の刑罰はですねー？悩める青少年にはやはりマスターベーション……めんどくさいですね。オナニーって必要じゃないですか？』



『ただ、その為にもオカズが必要ですよ
ねー？そのオカズの中でもかなりの割合を締め
てた二次元を規制しちゃうわけですから』
『それに変わるオカズを用意しないといけない
と思いますよ』
『変わる……オカズって……それって……』

『パソコンやスマホから簡単に操作できるオカズアプリ『女体化男子』！画面の中にいる女体化した男の子をエッチな責めでアへらせて、自分好みのエロシーンをつくれちゃうアプリです』



『健全な男子はオナニーのオカズを得られる上、自分も気を付けないとこうされてしまうという教訓になるわけですねー』

『ああ、安心してくださいね？ちやあんで、貴方たち変態さんにもまんずいくよう、あらゆる変態プレイも可能でよし、快楽で気が狂うことも無くしてあげてますから』
「やっやだ……やだよんなの……♡ゆっゆるしてよ」



はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

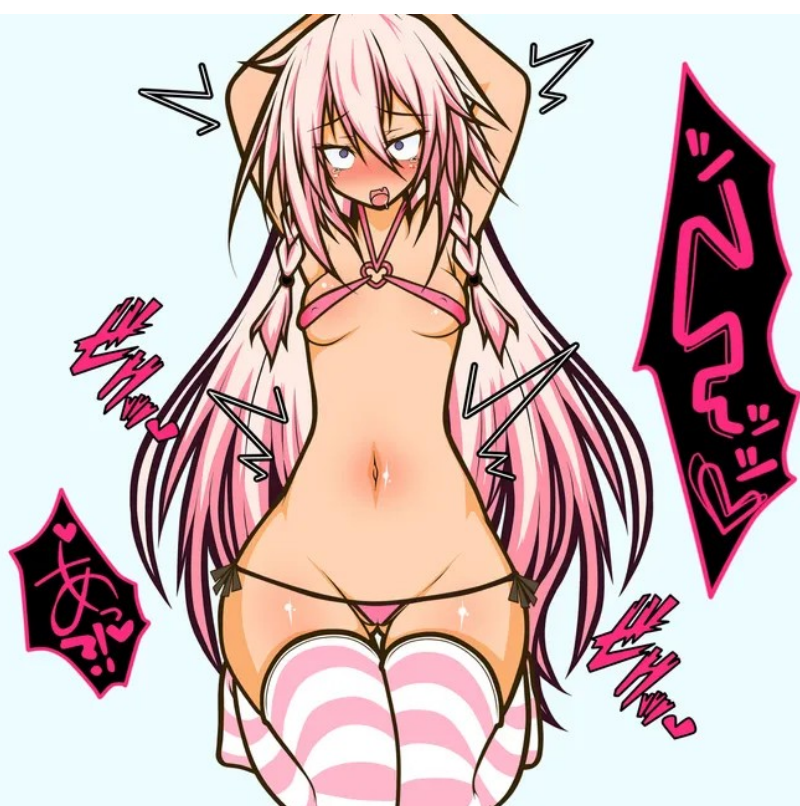
はー♡

あー♡
あー♡
あー♡

あー♡
あー♡
あー♡

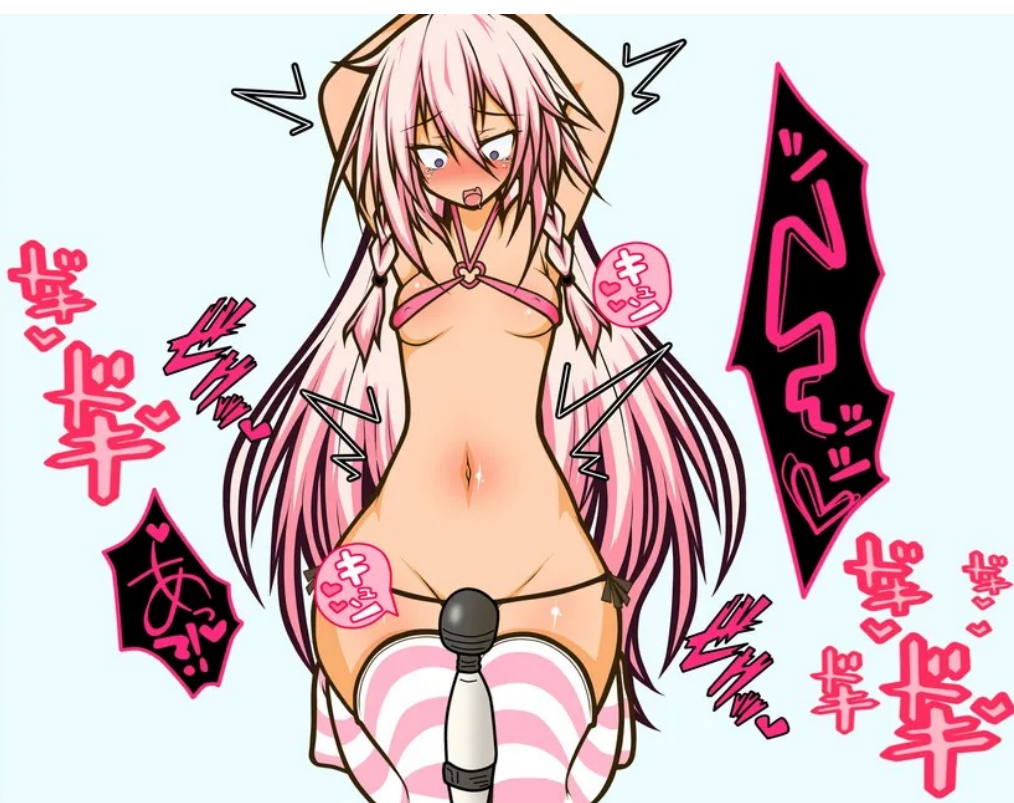
『そう言ったエロゲヒロインを貴方は許してあげましたか？さあ、まずはリクエストもありましたし、テストプレイという事で私が……』
『そう言っってエンマはスマホをとりだし、小器用に操作していく。』

『大丈夫、優しくしてあげますから。まずは
……身体の性感体を全身にして……、感度も
マックスにしちやいましょう……』
「ほっ♥!?!?はひっ♥!?!?」



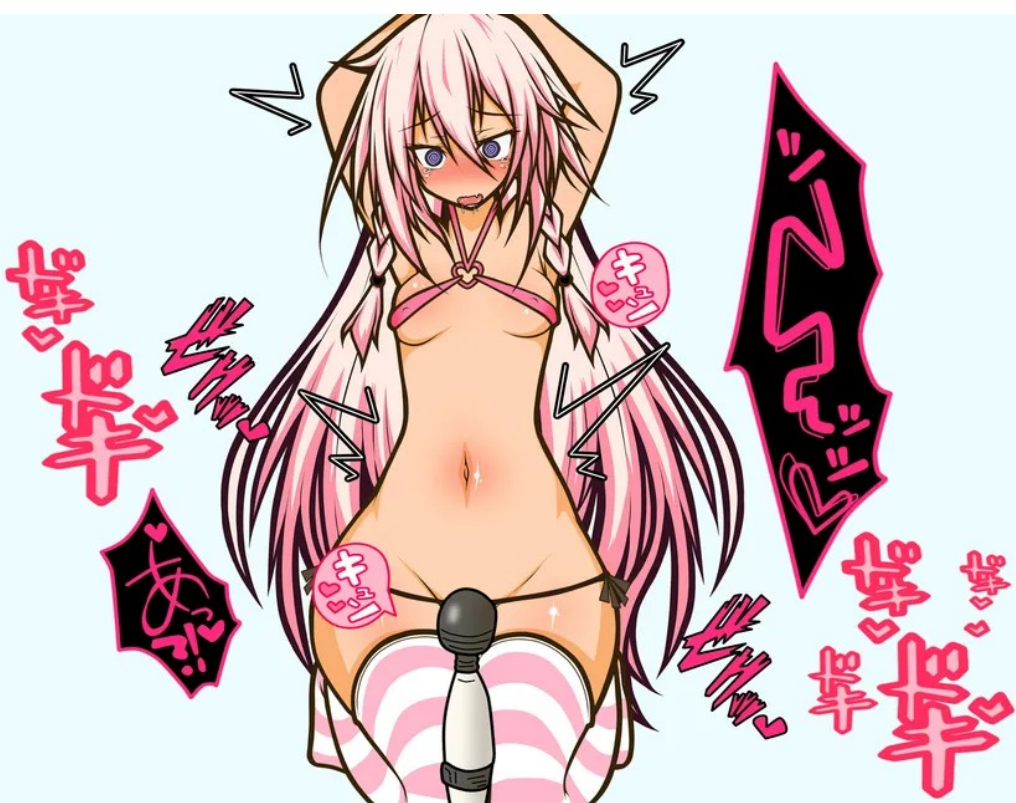
「にやつ……にやにこりえ……体があちゅ……
おひいいい♥!?!?」
『ふふふ、はじめて味わう女の子の気持ちよさは
どうですかあ?もうメスみたいな顔しちやっ
てますよろ?はやいでおねえ』

「ぼ……ぼくは……男……ほひい」
『テンプしおつ……と言っておいてあげま
しょう。さてでは、このテンプをおっほいてオ
マ○コに固定して……』
「んひいひい……?」



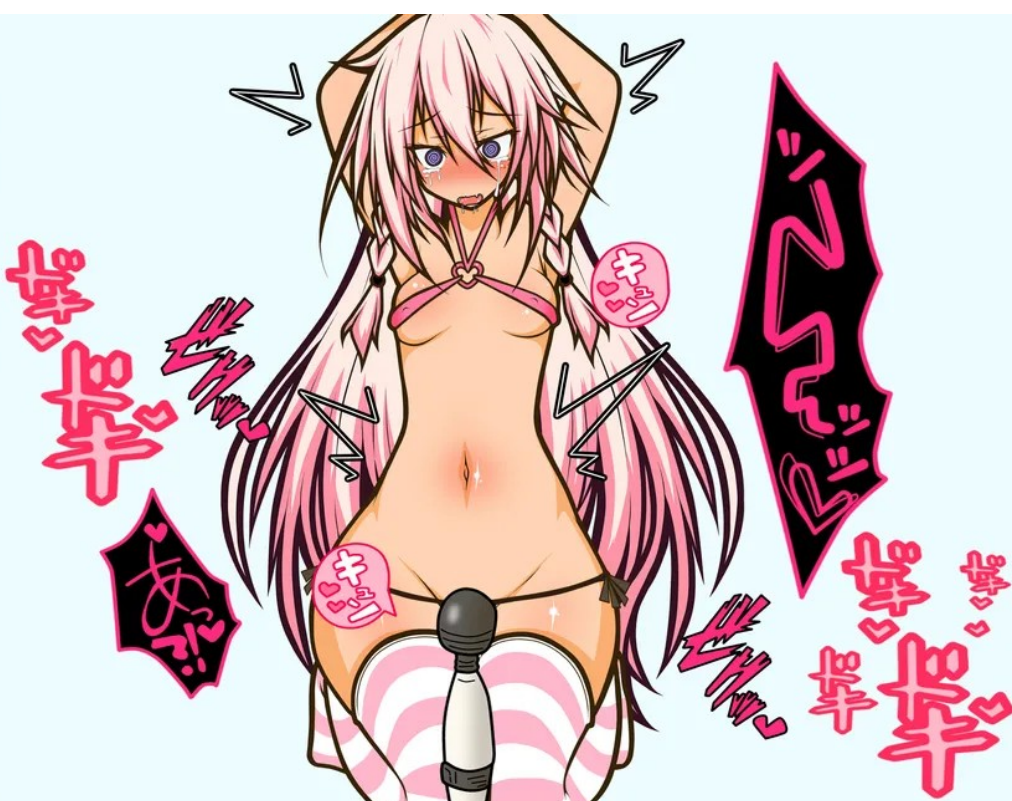
「あら、まだスイツチもいれてないのに、エツちな声あげちゃって。もうスタート押しちゃったら、速効でメス堕ちしちゃいそうですわね？嬉しいですか？」

「ちゃちゃら……女の子になれてなれたくない
……まって……こわいよ」



『ダメです。なめかうハートタビィです
さっしーのささるささる』
「ひっ、いやだ！ いやだいやだいやだ！」

『の〜5〜4〜』
「お願いゆるして♥♥もうエロゲしないか
ら♥♥マコガもあてる♥♥アニメもみないか
ら♥♥」



『の〜2〜1〜』
「いめんなさいいめんなさいいめんなさいいめ
んなさいいめんなさいいめんなさいいめんな
さいいめんなさいいめんなさい♥♥♥」



『サロ〜ン〜ン』
「♡♡♡♡」

「おひはおおおお!!!?おっ!!!?おお
お!!!?おま〇こが!!!?おま〇こが震え!!!」
「にははおおおお!!!?」
『あららら潮吹きながらいっちゃいましたわ
らら。そろそろんなにメスマ〇こ気持ち良かったん
ですかあ?』



「ほっほっ!!!?ほひいひい!!!?」
『あららら律も回っていないでらら?じやあ折角
ですし淫語モードもオンにしておきましょうわ』

あふあふ♡



『あはは、なんでも正直にエロエロくの変態
くくに喋っちゃうオプシオンですよ？どうで
す？』

「これにやの酷いよあーく酷いけど、感じりや
のおあーくおま○こエッチな汁吹き出しながりや
いぐううう、おま○こデニマでおてなされ
りやううう」
「ボク男なのに、デニマなんかには屈服させられ
りやうのはあまや」



『あはは、機能は問題無いみたいですね。それ
じゃ、その調子で皆のオナペット頑張ってください
いねー?』

『ただただ1の年分くらいの刑罰でよし、シヤ
ブ程度ですから』
「ひやっひやくにえん!?!?ひやくねんもこにや
ままああ!?!?まっまってええろっゆりゅし
……」
「だめっ!?!?そんなにやの酷いのに、メス
ま〇こ感じて!?!?おひはおおお」



『きもちよくなりゅうううう!?!?きもちよくなっ
ちやうのほおお!?!?んおっほおおろっ!?!?』
『じゃ、頑張ってくださいねっ』

1の年後

『さて、そろそろですかあゝ？うわ、ひでい有
り様ですねえ……まっ、こりあえず精神の健康状
態を回復させて……それから……』

『さあ、お目覚めでかあ？そろそろ次の刑の
時間ですよゝ？』

「あっ……あれ……終わったの……え……動けな
い……？」

『あはは、そりやそうですよゝ【備品】が勝手
に動いたら大変じゃないですかあ？』

『貴方は看守の性欲解消用オナホールなんでか
らゝ？』

「あゝ!? あああゝ!?」

「驚きましたか? まあ足は本当になくなった訳じゃないですよ。その体はいつてみれば魂を入れておく為の入れ物でしかありませんからあ」



『貴方はこれから、看守のくさくてぶつておおい
おち〇ぽのお世話をする備品になっちゃうんです
からさ』

『もろちろろろろ、貴方の生きてた時のみち○
ぼみたいに、ちいっちゃくて可愛いみち○ぼと
は訳が違いますから、どうせ足なんか生えてても
腰が抜けてうごけないでしょうけど』



『サービスでみち○この感度も最強に調整してあ
いてあげましたから頑張ってくださいね？
あっ最初の使用希望者がきましたよ』

「そ………そんないや………たしゅけ………」
漫画にできそうな大鬼が僕の身体を掴みあげる
……その股間には僕の身体程もあるみち○ぽが
……



『ああ、鬼田さん、その子初物ですのてまだ馴染
んでませんから、キツキツ具合楽しんでください
ねっ、あつ、私も見ていいんですかっ？好き
ですやねっ』

「ひっ！？ちよっ、ちよってまって！？そっそ
んにやの無理！？死んじやう！？死んじやうが
ら！？」
『大丈夫であって、オナホールとしてちやあんで
使えるように体は伸び縮みできるようになってま
すからあゝ』



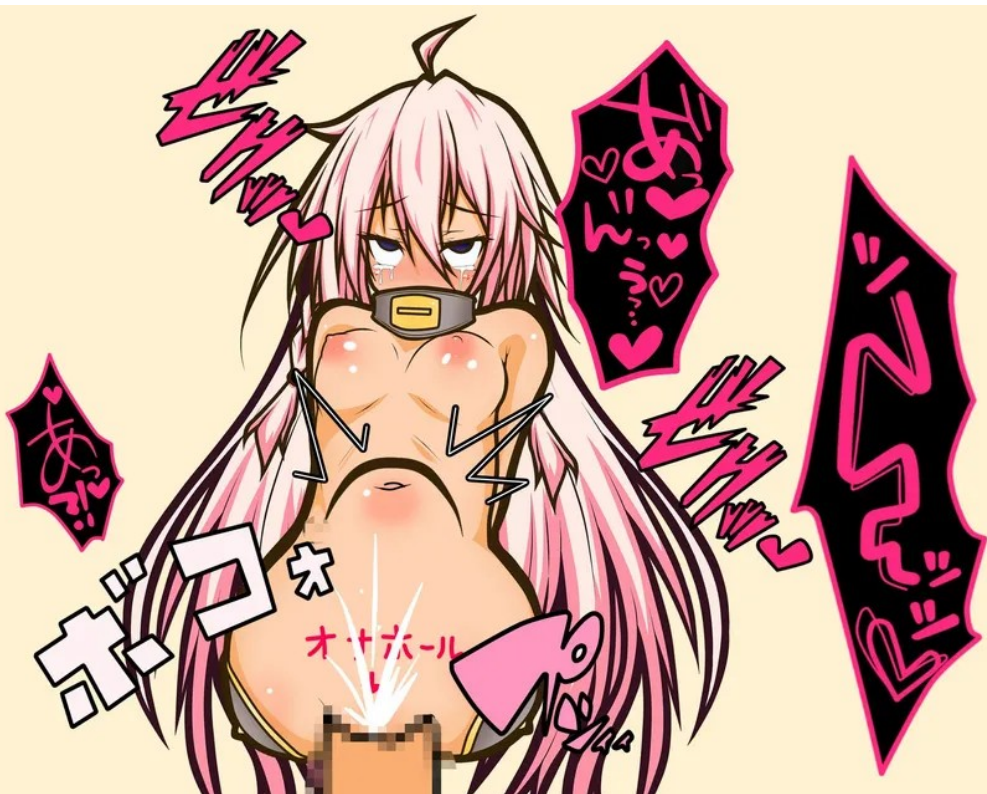
『たまあめに、私もそれやるんであけで、気持ち
いいですよ？自分が単なる物として扱われる
屈辱はいいですかあゝ？じや、いってらっ
しゃああい』



「んおおおおおおお！？おっ、おち○ぽ
……♡♡♡？ふぐううう♡♡♡？」
『あはは、見事にお腹がほこおってなってますね
くら？全身おま○こボディでそのおち○ぽ味わう
快樂はすごいでしょう？』

ズブううう♡♡♡

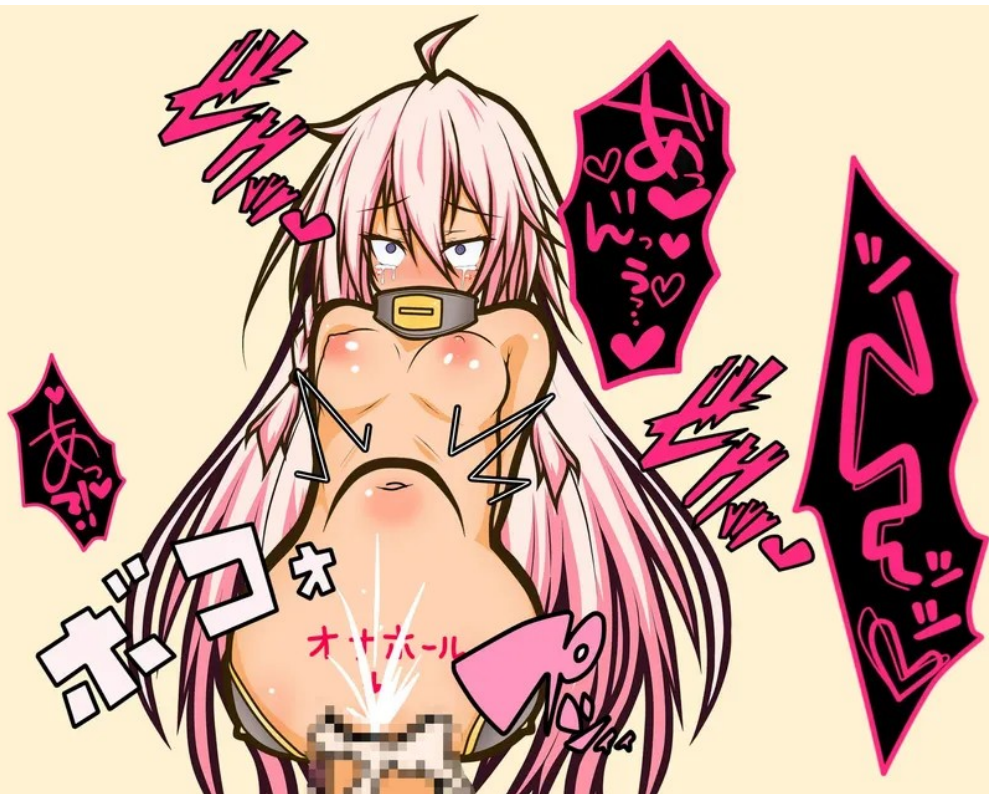
「おひっ♡♡？おひいいい♡♡？狂う……♡♡
これにやのくりゆう♡♡にほおみみ」
「あひっあひいいい♡♡無理いい……無理にやの
にいいい……オナホおま○こで、おち○ぽこし
こすりゃだけの道具にされてりゆううう」



『あはは、そうであやうう？貴方はもう物なんで
すよーらほらほら来ますよーらしやせー
いー』
「そっ、それにや……♡♡へすみっすみっでまっ
……」

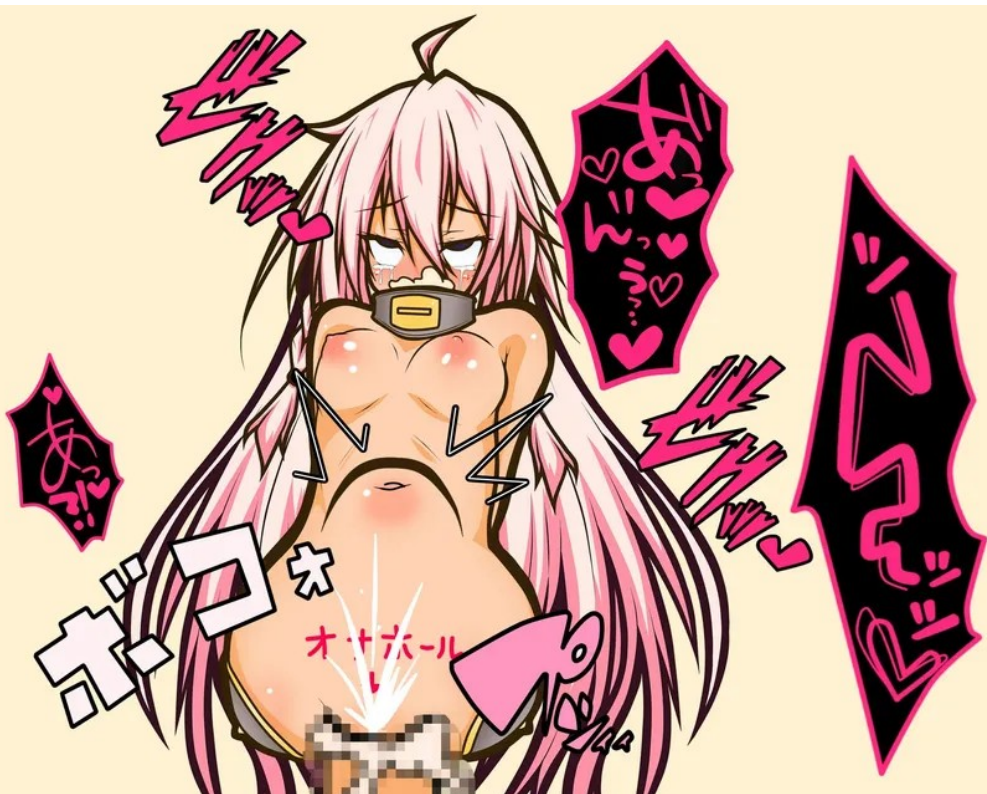
ぶびゅゅゅ

「おひはおおおお.....はっ.....は
おおおおお.....」



「おち○ぽミリユク溢れ.....♡♡♡ん
ぶゅゅゅ♡♡♡にや・にやにカ○カリや
.....♡♡♡」

「ぶひっ♡♡♡ぶひいいい♡♡♡」
（口からオナ○液ミルク♡♡♡おぼ
おおおおおお）



『あはは、中々の名器に仕上がってるみたいですよ
ねっ？まっその調子で性欲処理頑張ってください
いねっ？』
「ぶひっ.....ぶひいい」
（.....こんなやの.....いやあああ）

『さてさて、それでは次の刑罰のお時間ですよ
おあって……うわああ酷いことになっちゃってま
すわっ』

『まっ、気絶してるようだし、そのまま次に
いっちゃいましょうわっ』

「こっこれって……」
『あはは、もちろん次はそのおち○ぽに罰を与えてあげます。もう二度と射精したいなんて思わないくらい、おち○ぽミルクをぶびゅぶびゅさせてあげますわ?』



「びゅんまっ、まって……おひい……
にやんにやにこりえ……きゅんタマが……おほ
おほ!」

『あーそのキ○タマは特別製で、普通の何万倍ものペースでおち○ぼミルクを作れるようになってるんですよー』



『はーはー、はやくおち○ぼミルクぶびゅぶびゅしないで、キ○タマ破裂しちゃいますよー？まっ、一度射精したら何十年は止まらなくなっちやうて思いますが』

「何十年……♡♡？そんなにや……ほひいい♡♡？
きっ、キ〇タマアア……キ〇タマおち〇ほミルク
で……んひいい♡♡」



「やっやら……♡♡おち〇ほミルク出っっほにやし
なんていやあぁ……♡♡やらぁ……イキたくにやい
……イキたくにや……」

「おひはおおおおおお！？でっでっでっ
うろ！？おち○ぽミルクぶびゅぶびゅでちゃって
りゅううろ！？」

あざあ♥

あ〜♥
あ〜♥

あー♥

はああ♥
ああ

ぶっ
びゅ♥

ぽろぽろ…♥

あ〜♥
あ〜♥

あざあ♥

「こっこまらにや…♥♥♥？
あっほおおおおおお」

『おー見事に射精しちゃいましたわー。大丈夫です、そのおち○ぽミルクは美肌用のクリームとして再利用する予定であからう存分に出してくれていいですよー？』

あーあ♡

あー♡
あー♡

あー♡

はああ♡
ああ♡

あー♡
あー♡

あー♡
あー♡

あーあ♡

「そっそれにゃ心配してにゃ……によほ
おおお♡！だめえええおち○ぽ射精してゆの
に、追加のおち○ぽミルクでんでん出来ちゃって
りゅーろ」

「おち○ぽイクのてまんにやひいいいゝゝゝ！パ
カになりゅうおち○ぽミルク出しすぎてバカにな
りゅう」

あざあ♡

あゝ♡
あゝ♡

あゝ♡

はああ♡
ああ♡

あゝ♡
あゝ♡



『あはは、いいんですよゝゝ？貴方はもうおち○
ぽミルク製造器なんですからあゝゝ？好きなだけ
いっちゃって下さいね？』
『ほらほらおち○ぽミルクがたあっぶり詰まった
メスキ○タマ、もゝゝみもゝゝみしてあげますか
らゝゝ？』

おあな



「おほおおおおおおおおお！！！！」



『さては、そろそろ前ふりのネタも尽きてき
ましたし、まあっくり飛ばしちゃいましょう
か』
「ごめん♡♡♡たぶっちゅっちゅ♡♡♡」

『あはは、いい眺めですわ〜？どうですか？
体は完全に拘束されて、視界も言葉も奪われて
部品にされちゃう気分は？』
『まあ、貴方にはこれから女の子の感じた快楽
をエネルギーに代える、アクメ発電機のパーツ
になってもらいます〜』



『え？どういった理屈かって？あれじゃないで
すかね？エロ漫画的で都合展開』
『まっ、原理はどうあれ発電できるなら大差は
ありませんよ〜貴方の身体も特別に改造して
あげたんですから、感謝してくださいね
〜？』

『固定されたパイプは子宮まで完全に貫通して、直接快楽を叩き込むインパルス式』
『乳首はみち〇ぼミルクを射精できる様にキ〇
タマ内蔵式にして、脳ミソに直接快楽を叩き込む洗脳ヘッドフォンも完備』



『ぜーんぶ、貴方の為に揃えた最新式ばかりです。感謝してくださいねっ？』

「ぶぶぶぶぶぶ……♡♡♡？？？ぶひいい♡♡♡？？」
 (うっ……♡♡♡？？？そんなにやの無理♡♡♡絶対
 こわれりゅ……♡♡♡こわれりゅかりゃ♡♡♡)



『あー大丈夫ですよ。貴方はパーツなんでずから壞れても気持ちよくなつてくれさえすればいいんですよ』

『じゃあ、このポタンを押せば始まつちやいままのでううまた何百年後にでも会いましょうか』



（まっまって♡♡♡いやっ置いてかないで
.....）
『あっすっすっす』



「アッ...アッ...アッ...アッ...アッ...」

(おはやおやおやおやお!!??きっ
たぬぬ♥♥気持ちいいのきちやっ
たぬぬ♥♥ほっ、はやおやおやお)



(おま○こも乳首も全部いってけゅうちゅ♥♥
乳首いい乳首おち○ぽミルク出て……ほ
ひいいい)

『さてさて次の刑罰でござるよかったですかねえ？まだ今回は比較的マイルドでござろう？』
「ぜ……全然信用できない……♥」
『あはは、シヨックでござる泣けてきちゃいますよゝゝゐええん。まあ、それはさておき……まずは……』

「んひっ……♡♡♡にやっ……♡♡♡にやっ(っ
れ……♡♡」



『あははどうですっ？ スクール水着に擬装さ
せた触手服ですよっ？ 全身を舐め回されるよ
うで気持ちいいでしょう？』

「こっこんなの気持ちわる……んひい♡♡？
なっゆに……なかにいい♡♡」

『ああ、その触手は貴女の愛液が養分となって
ますんで、触手の寿命がくるまで逃がしてはく
れませんから、まっ百年はそのままエッチな
お汁製造器として生きてってください』



『あついでにおっぱいも、キ○タマ汁が射精
できる用になっておいたままですのさっそっち
も頑張ってビュルビュルしてくださいね』
『まあ、もちろん。それだけじゃ甘いのでさ
このまま天国に貸し出して、ベットとして惨め
に生きてもらいましょうから』

「とっしん……♡♡♡」
『はい、そうすめららるエロダはっかりやっ
て女のちきりもーぐくくっのいっ』



『男でも、女の子に変えられてるエッチでド
変態な衣装を着させられて、あんな喘ぎ鳴く
だけの変態ペットにされちゃうっていう教訓に
なってもらいますので』

『おかつたですわ〜そのエッチな姿、皆にみてもらえますよ〜?』
「やっやら……!?!やらあそんにやの……おひはおおおおお!?!」



『あはは、期待しておま〇こびちよびちよに濡らしちゃったんですかあ?その触手はおま〇こ汁が栄養なんですわから、濡れたら濡れただけ元気になっちやいますよ〜?』

『もう、男の子の尊厳なんかなくなっちゃいま
したわ〜』

「ほっほくは……おてこ……んほおおおおお」



『だらしない顔して、そんなに気持ちいいんで
あかあ？まっ、せいぜい楽しんできてください
わ〜』

「いやっ、いやあああ〜！！んおおおおおお」

『さてさてなんやかんやで……アナタの刑期ものこり999年となっちゃいましたねー？いやぁ早いものです』

「そ……そんな……まだそんなに……♡♡♡？」
『はい……まあ、テストケースですし、色々ためしてみたいじゃないですかぁ？』

『まあ勿論、ちやぁんと反省して……貴方がおち○ぼの欲求に耐えられるようなら、もっと早くに出してあげてもいいんですけで……？』

『どうですかぁ？やってみます……？』

「やっやる♡♡もちろん♡♡もうおち○ぼもおま○こも気持ちいいの辛いから……♡♡♡」

『あら……いいんですかぁ？仕方ありませんね』

「おひよ……♡♡♡？ほっ♡？ほお
おおおおおおおおおお♡♡♡？」
「おっ、おち○ぽが……キ○タマ……♡♡♡？ほ
ひいいいい♡♡？にやっにやにこれええ♡♡？」



『メスち○ぽでメスキ○タマじゃないです
かああ？貴方が刑期の短縮をお願いしちやっ
たわけですから』

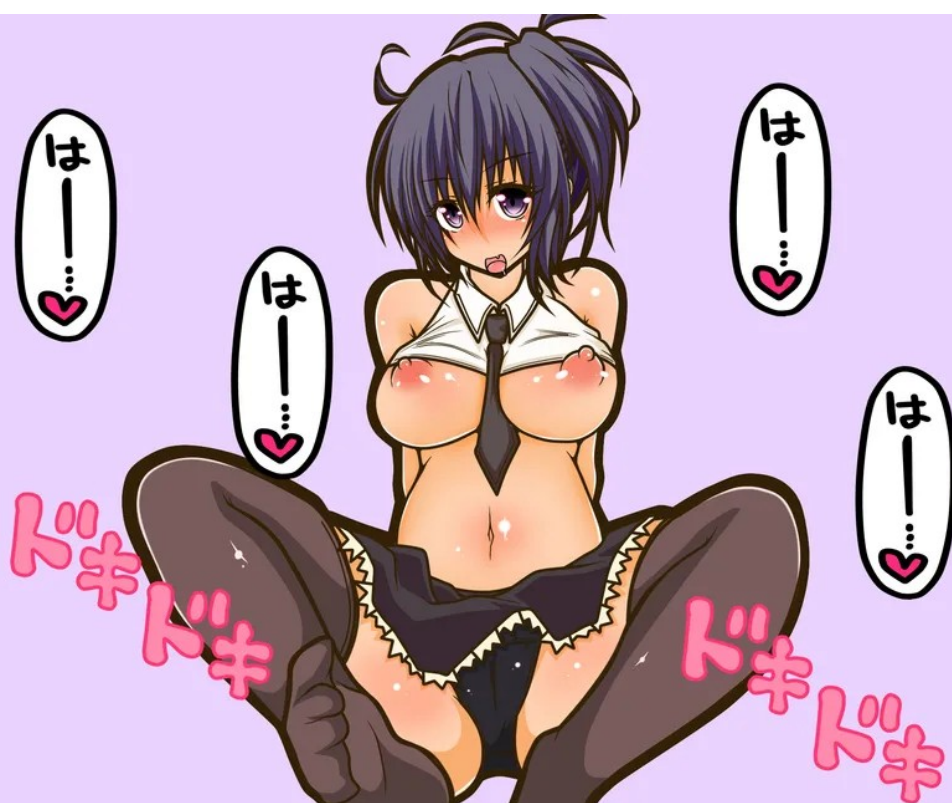
『のこりの年の性をこの先一年に圧縮してあげましたあゝまっ単純にののの倍の性欲でよし、こうなっちゃいますよねえ』



「てつてめ……♡♡？んおおおお……破裂す
りゅう……メスキ○タマ……おち○ぼミルウで
破裂すりゅう。おま○こも熱くて……ぶ
るるる」

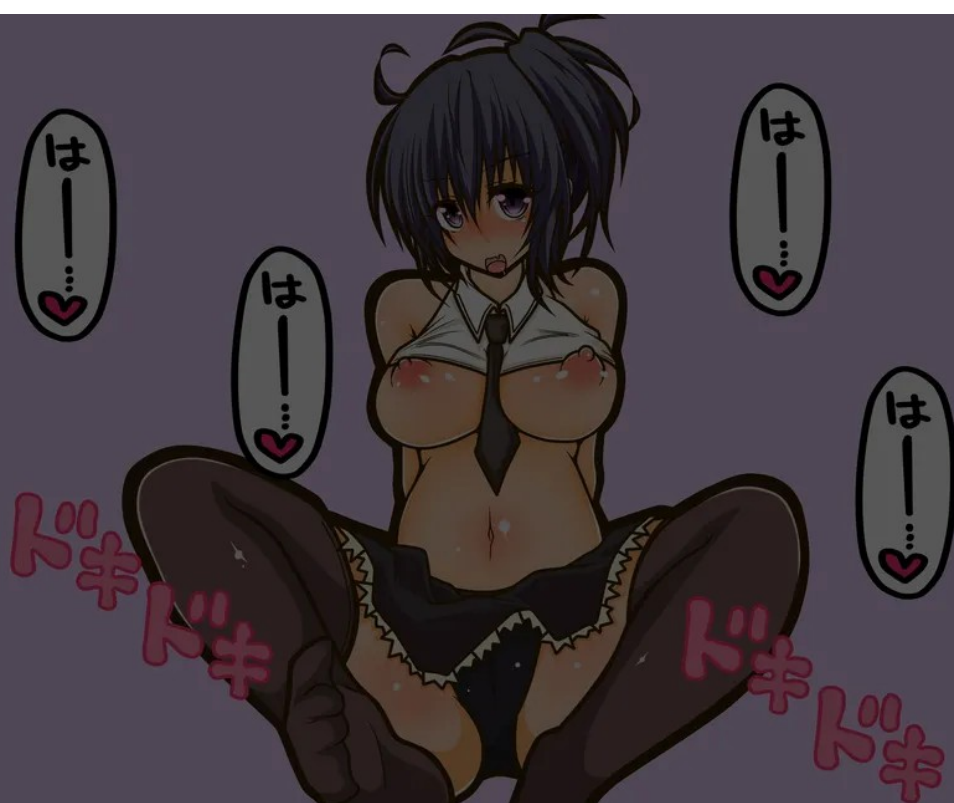
『ダメですよ〜あなたはそのまま、おち〇ぽも
キ〇タマもおま〇こも我慢して一年すごすんです
からあ?』

『あつもし、イッたらそのままの状態で刑期の延
長ですかね?一回1の年。まっ最初の一万年に
比べたら随分良心的ですね?』



『まあ、それでもさ〜もし我慢できなかったら、
私が直々に足〇キくらいしてあげますよ〜?』
『ほらほら?どうですか?ムシムシ足ま〇こですよ
〜♪おかずにあっぱいくらいは見せてあげます
から〜』

『私って結構着痩せするんであけでゆ々のものでしょう』
「はぁぁぁ……はぁぁぁ……ムシムシ足ま〇……」
（だめ、ここで我慢しなかつたら全部水の泡に……ボクは……ボクは……）



「むりいい！我慢なんてできないっ！してええっ！足ま〇こで、情けないおま〇こシ「シ」してくださいい」
『あらっいいんですかあ？そんなタプタプキ〇タマ、一回いっっちゃったら、もう止まりませんよっ！』



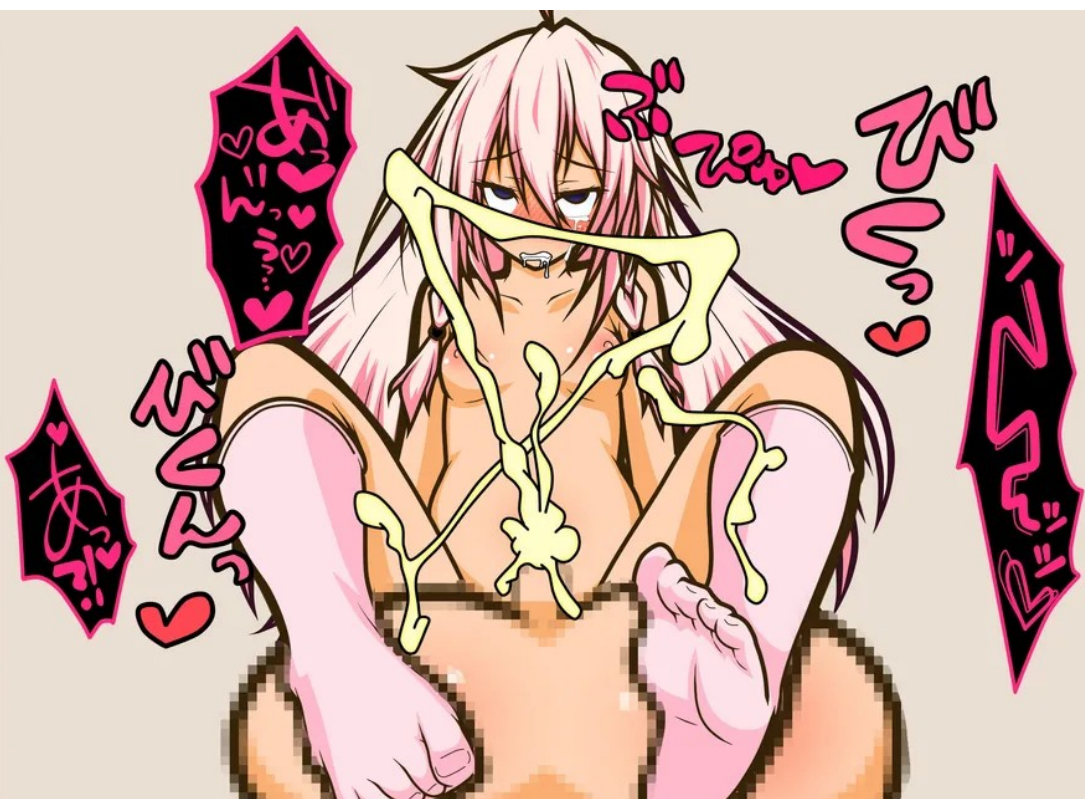
「いいでしゅうっ！もうおま〇こもおち〇ぽもキ〇タマも、全部気持ちいいからやあぁ！気持ちいいことしてええっ！」

『あらあらいいんであがぁ？そんなタプタプキ
〇タマ、一回いっちゃったら、もう止まりません
よっ。』
「いいしゅうう！もうみま〇こもみち〇ぼも
キ〇タマも、全部気持ちいいかりやあぁ！気持ち
ちいいことしてええ！」



『あはは、これじゃ刑罰でござらないであわ
ゝしかたありません。ほらゝたぁんと味わっ
てくださいねっ。』

「おひいいい!!?おち○ぽおあ!!?おち○ぽい
くうう!!?もう取り返しのつかない事しながら
いっちやうにはほおおあおあ」
『あはは、おま○こが寂しそうですねっパイア
もちやあんでいれてあげますから』
ずぶっ



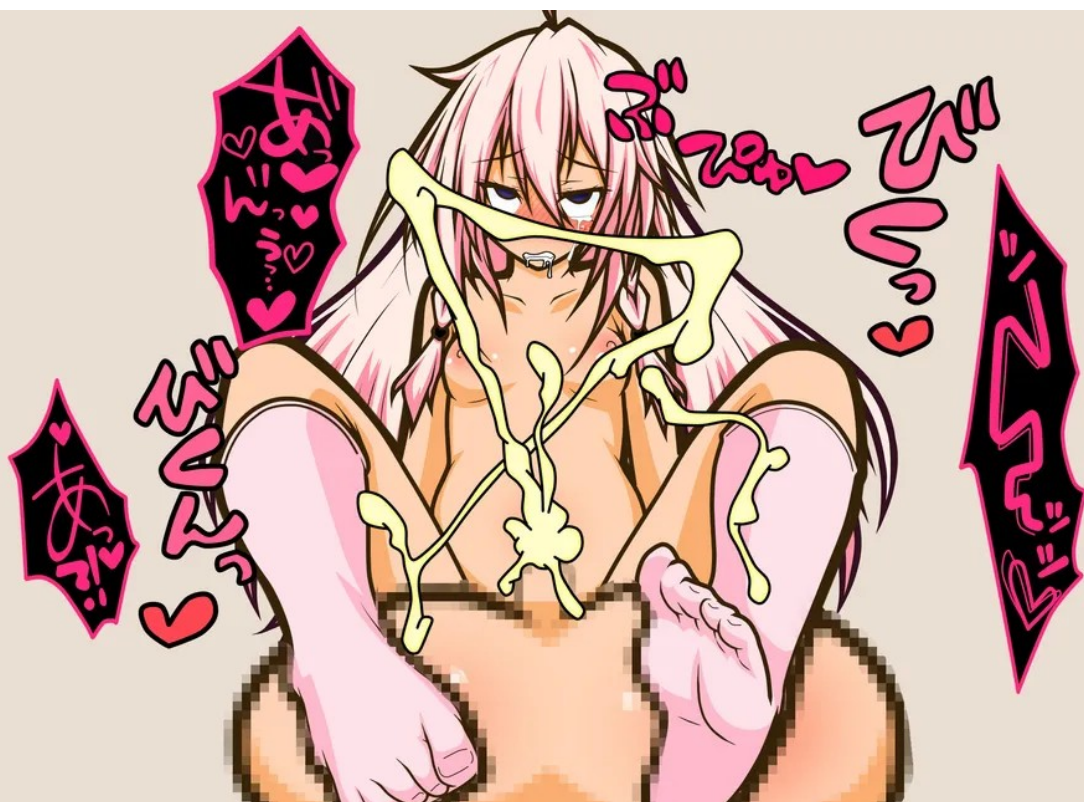
「ほひいいい!!?おま○こ……おま○こき
たああ!!?おま○こもいってりやのおあっ!!」
「パイア様に屈服アケメすりやうう!!?男なの
に、パイアに服従しちやうう!!?ん
ほおおあおあ」

『あはは、まだおわりませんよ〜？？？し〜し〜こし〜こし〜さっなん十回でも何百回でも何千回でもいかせてあげますから、頑張ってくださいね〜』



『はら〜はら〜、おち〇は頑張れ頑張れ〜フレ〜フ〜し〜おち〇は〜』

「にはほおろろろ！いくろう！いくによて
まんにやいろろ！おひはおおおおお」



「おわりゅううううううう人間としておわりゅう
うううう！！ん
ほおおおおおおおおおおおおおおおおおお」

『さて、それではもう数えきれないくらい
イッチやいましたし、もうアナタの為に刑罰
を考えるのもめんどくさくなってきました』
『な〜の〜で〜』



『しばらくは噴水として設置しておくことに
しました。その惨めな姿を天国のみんなに晒
して、せいぜい見せしめにでもなったださ
いね〜？』

「おひっ！！？おひはおおおおおお」



『あはは、もうぜーんぶ気持ちよくて聞こえてませんかあ？ まっしけたありませんよね。それ気が狂うくらい気持ちよさそうだからあ』



『私もちよあつて、やってみたいところですね。ねえ、まっしけたじゃ、何百年かしたらまた来ますから、お元気で。』
「んぶっ！んぶうううう！んぶ
ひいひい！」

